

## 集検喀痰細胞診における早期肺扁平上皮癌の発見率向上のために —過去10年間の検査成績より—

○荒木由佳理<sup>1)</sup>、室井 祥江<sup>1)</sup>、佐藤美賀子<sup>1)</sup>、神尾 淳子<sup>1)</sup>、菅野 薫<sup>1)</sup>、田中 瑞子<sup>2)</sup>、森村 豊<sup>3)</sup>  
1) 公益財団法人福島県保健衛生協会、2) 公立大学法人福島県立医科大学医学部、  
3) 埼玉医療生活協同組合羽生総合病院

【目的】集検喀痰細胞診の目的は早期肺扁平上皮癌の発見であり、国の指針において、住民検診では年齢50歳以上、喫煙指数600以上のハイリスク者を対象としている。今回、喀痰細胞診の精度向上を計ることを目的に、過去10年間の検査成績を検討した。

【対象・方法】2006～2015年度の10年間に実施した住民検診の喀痰細胞診受診者延べ53,844名を対象とし、男女比、年齢構成、喫煙指数、要精検数、精検受診者数、がん発見数、胸部X線受診状況、組織型別、病期分類別、発生部位別を調査した。

【結果】受診者の男女比は、男性43,554名(80.9%)、女性10,290名(19.1%)で、50歳以上は48,428名(89.9%)、喫煙指数600以上の者は31,473名(58.5%)であった。年齢50歳以上、喫煙指数600以上のハイリスク者は、30,795名(57.2%)であった。

細胞判定内訳は、喀痰不適：A判定546件(1.01%)、異常なし：B判定51,920件(96.43%)、要再検：C判定1,253件(2.33%)、要精検：D判定53件(0.10%)、E判定72件(0.13%)であった。

要精検数は125件(0.23%)、精検受診者は112件(90.3%)、がん発見数は65件、10万対比癌発見率は122.0であった。

発見がんの65件はすべて男性で平均年齢は72.6歳(最小58歳～最大86歳)であった。

このうち原発性肺癌57件の組織型の内訳は、扁平上皮癌35件(61.4%)、腺癌11件(19.3%)、小細胞癌5件(8.8%)、腺扁平上皮癌2例(3.5%)、組織型不明5件(8.8%)であった。同時に受診した胸部X線検査の結果は、判定BおよびCの異常なしが57件中24件(42.1%)と約半数を占めていた。

扁平上皮癌35件の病期分類別では、0期3件(8.6%)、IA期7件(20%)、IB期4件(11.4%)、II期4件(11.4%)、III期10件(28.6%)、IV期3件(8.6%)、不明4件(11.4%)であった。

0期とIA期の早期肺扁平上皮癌10件中8件は、ハイリスク者であった。発生部位別では、肺門部5件、肺野部5件であった。全例同時に胸部X線検査を受診しており、結果は異常なしであった。

【まとめ】集検喀痰細胞診を契機に発見された早期肺扁平上皮癌はハイリスク者が多くを占めていた。集検喀痰細胞診における早期肺扁平上皮癌の発見率を高めるためには、ハイリスク者を一人でも多く受診させることが重要である。